

令和7年度 英語科及びデジタル科実施状況について

(別紙2)

金沢市立小坂小学校

児童アンケート

(1) 英語科(小学校5年生:令和8年1月実施) (%)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語科の勉強が好きだ。	30.0	40.0	21.0	9.0	0
問2	英語科の勉強は大切だ。	65.0	25.0	10.0	0.0	0
問3	英語科の授業の内容が分かる。	59.0	35.0	3.0	2.0	1.0
問4	先生や友達に英語で質問することができる。	38.0	38.0	15.0	9.0	0.0
問5	先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる。	30.0	44.0	17.0	9.0	0.0
問6	アルファベットの大文字が書ける。	71.0	17.0	7.0	5.0	0.0
問7	アルファベットの小文字が書ける。	68.0	20.0	9.0	3.0	0.0
問8	教科書やピクチャーディクショナリ - の単語や英文を書き写すことができる。	57.0	27.0	13.0	3.0	0.0
問9	教科書の単語や英文を読むことができる。	36.0	32.0	22.0	9.0	1.0

(2) デジタル科(小学校1～6年生:令和8年3月実施)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば そう思う	そう思うわない
問1	自分やみんなのことを考えてICTを使うことができる。	68.0	18.1	11.6	1.3	1.1
問2	生活の中で上手にICTを使うことができる。	66.5	23.4	9.0	0.4	0.7
問3	深く広く学習するためにICTを使うことができる。	66.0	20.0	12.3	0.3	0.4

指導改善の具体策

【英語科】 ・「英語科の勉強は大切だ」という質問項目に対して肯定的な回答をしている児童の割合は90%と高い。英語の必要性を実感させるために、学期末に字幕でDVDを鑑賞するなど、「英語が分かった!」と実感できるような活動を工夫していく。 ・アルファベットの活動については、肯定的な回答をしている児童の割合が市の平均よりも6～7%低い。中学年でのアルファベットの学習時にビンゴや双六などで楽しんで形を覚えさせ、高学年ではUnitの最後に必ず書く活動を取り入れるなど、長期的・継続的な活動で定着を図る。 【デジタル科】 ・タブレットを中心にICTの活用について、約3分の2の児童が上手に使っている(そう思う)と感じている。残りの約3分の1の児童がより使えたと実感できるように、デジタル科の時間だけでなく他教科の授業でもICTのメリット・デメリットを実感できるような活動に取り組んでいく。具体的には、発達段階に合わせた児童のICTを使う姿を教職員が共有し、デジタル科の時間以外の教科で使えるような場面で、日常的かつ積極的に活動に取り組んでいく。

学校関係者評価

・英語科の勉強に肯定的な児童が多いことは良い。DVD鑑賞等、児童が学習した構文や単語に気づくことができる機会を設定されているのも児童が「分かった」「できた」と実感できる場につながり良い。できれば、ALT+外国の方と交流できる場を設定できると面白いのではないかと。また、AIを使って児童が自ら反復・練習できる授業例、指導例も効果的であると聞いているので、小坂小学校でも取り入れていれてみると良い。 ・小坂小学校の実態として、タブレットの持ち帰りに消極的であると聞いた。指導面について課題は残るが、メリットに焦点をあてて学校以外でも活用できるような環境を整えていけると良い。生成AIの利用についても積極的に利用していくとよい。その際には、AIの回答が正確ではないことや良くない使い方もあることを、体験を通して指導した上で、行っていけるようにすると良い。
--